

ユビキタスサービス特集／TELECOM 2006出展報告によせて



常務取締役
CTO
杉本 晴重

近年、デジタル化技術、液晶・プラズマ技術の急速な進展とハイビジョンテレビの普及により、一般の家庭でもリアルな美しい映像を楽しめるようになるとともに、自分の好みのコンテンツを地上デジタル波放送の番組、CATVやインターネットを経由した映画・番組の配信によって簡単に手に入れることができるようになりました。

YahooやGoogleといったインターネット検索サービスを使えば、膨大な情報の中から自分が欲しい情報や商品・サービスを瞬時に探し出すことができますし、YouTubeのサービスを使えば、自分が街中で見つけた面白い映像を携帯電話で撮影して世界中に発信することも可能です。ネット上ではmixiやMySpace.comといったSNS（Social Network Service）が大流行していますし、ゲーム端末も世代を新しくしバーチャルコミュニティに参加して未知の仲間と遊ぶといった光景も珍しいことではなくなりました。

こうしたネット上のサービスの急速な広がりには、ビジネスの世界にも大きな変革をもたらしています。ネットショップは情報収集アンテナ的な役割から収益の柱に変わりつつあります。リアルな店舗を持たないネット専門ショップやネット専門銀行も事業を伸ばし、さらには、ネット上には日々新しいビジネスモデルが生まれています。

こうしたネットビジネスの発達には、ネットワーク技術の進歩と普及に支えられています。2006年9月末の日本におけるブロードバンド契約数は約2,500万世帯、普及率で53%を超え、第3世代携帯電話契約数は5,700万件を超えて普及しています¹⁾。まさに日本の全世帯の半数がブロードバンドを利用し、国民の2人に1人が高機能の携帯電話サービスを利用していることとなります。

そして、情報と通信、固定網と移動網、通信と放送などのネットワークを統合し、高速・大容量通信による安心で安全なリッチコミュニケーションを可能にするNGN（Next Generation Network）への取り組みが世界的に始まりました。NGNはサービスをさらに多様化し、ビジ

ネスモデルの変革をさらに加速させ、いつでも、どこでも、何とでも、制約無くそのヒトに最適な形で提供されるユビキタスサービスにあふれる社会、すなわち当社の目指すe社会®の実現に向けた起爆剤になるものと期待されています。

本誌では、こうしたユビキタスサービス実現に向けたOKIの取り組みをご紹介しますとともに、ユビキタスサービス実現をテーマに参加しましたTELECOM 2006への出展について特集しました。

ユビキタスサービス特集

ユビキタスサービスは、いつでも、どこでも、何とでもコミュニケーションを可能にするユビキタスネットワークと、「個」別化された的確なサービスを提供する基盤となるユビキタスサービス・デリバリプラットフォームおよび業種別ユビキタスサービスという3つの階層によって実現されます。

ユビキタスネットワークは、NGNとして通信キャリア各社がITU（International Telecommunication Union、国際電気通信連合）勧告に基づき2010年の実現を目指しているフルIPによる統合テレコムネットワークであり、ブロードバンドネットワーク上のダイナミックな通信帯域制御、高度なネットワークセキュリティの提供とホームネットワーク・センサーネットワークとの連携、オープンなインタフェースなどが提供されます。

当社は、NGNへの対応を核に、WiMAX、次世代光ネットワークへの対応、さらにホームネットワーク、センサーネットワークならびに企業ネットワークへの対応を充実させています。

ユビキタスサービス・デリバリプラットフォームは「個」に最適なサービスをシームレスに、かつ安心安全で利便性の高いサービスの提供基盤であり、当社は従来から情報通信融合のプラットフォームとして提供していますAP@PLAT®を拡張し、ユビキタス時代のサービスデリバ

リープラットフォーム（SDP）として開発しました。

また、業種別ユビキタスサービスの領域では、OKIの事業領域に沿って金融、公共、エンタープライズの大きく3つのシナリオを描いています。

金融ビジネスの領域では、銀行の営業店の統廃合などがさらに進み、お客様とのチャネルである店舗もリアル店舗、バーチャル店舗など多様化が進み、戦略的なチャネルモデルの構築が重要と考えられます。利用者はSuicaやEdyをはじめとする電子マネーの普及拡大によりさまざまなサービスを受けられるようになるとともに、今後はネットワークを介したリッチコミュニケーションを使うことで、営業店へ行かなくても自分のライフプランに合った資産運用やローン借入れなどのきめ細やかな金融サービスをいつでもどこからでも受けられるようになります。

エンタープライズ・ビジネス領域では、すでに携帯電話やモバイル端末を使って飛行機や列車の座席予約、宿泊予約や交通情報の確認などをすることができます。今後、これらのサービスはパーソナライズ化されて自分が必要な形に組み合わせられ容易にアクセスできるようになっていくでしょう。OKIは、運輸・流通のお客様と協力して人の移動にフォーカスしたユビキタスサービスの実現に取り組んでいきます。

官公庁・公共ビジネス領域では、少子高齢化、環境問題が進む社会の中で地域の安全と安心を支えるサービスの実現に貢献していきます。センサーネットワークなどの新しい技術を駆使し、防犯・介護、省エネルギーなどの分野で実現が望まれているサービスを提供したいと考えています。

本誌では、ユビキタスサービス実現への取り組みとして、異なるネットワークを接続するゲートウェイ技術、通信帯域をダイナミックに制御する技術、高度なセキュリティを実現する技術、各種のネットワークを制御するシステムプラットフォームやそのアーキテクチャ、端末技術、ならびに業種別ユビキタスサービスへの取り組みについてご紹介します。

TELECOM 2006出展報告

2006年12月4日から8日までの5日間、中国・香港のAsia World ExpoにてTELECOM 2006が開催されました。TELECOMは国際連合の専門機関として活動しているITUが主催する展示会であり、同時に、フォーラムにて各国政府機関ならびに主要企業の代表者による技術標準などの議論が展開されます。従来TELECOMはスイス・ジュネーブにて開催されていましたが、今回初めて開催

地をアジアへ移し香港での開催となりました。

第10回目にあたる今回のTELECOMでは“Living the Digital World”のメインテーマのもとに、141カ国から約6万2千人が参加しましたが、特に今回は中国企業を始めとするアジア企業の出展と参加者が目立ったといえます。（<http://www.itu.int>）

当社は2010年グローバル企業OKIを目指し、e社会のキープレーヤーとしてユビキタスサービス実現に向けた取り組みと技術・商品群を海外のお客様にご紹介する場として参加しました。

フォーラム・セッションの基調講演では、当社社長・篠塚勝正が「ユビキタスセキュリティーデジタル世界の安心、安全に向けて」と題してユビキタスネットワーク社会が実現されつつある今、新たに発生する脅威やリスクに備え、「個」の状況に応じたユビキタスセキュリティの確保が重要であることを訴えました（本誌76～83ページ参照）。

また、展示ブースではユビキタスサービスにあふれるe社会の実現に向けて「CenterStage®NX」やWiMAXなどのOKIの次世代通信網NGN関連製品、ならびにそれらの上でユビキタスサービスを実現するOKIの最新技術、商品を表示しました。

本誌の2つ目の特集としてこれらフォーラム講演および展示システムをご紹介します。

ま と め

当社では2006年11月1日創立125周年を機に、皆様の夢や希望が現実のものとなるe社会の実現を目指して“Open up your dreams”をブランドスローガンとして制定しました。

そしてe社会のキープレーヤーとして各種ユビキタスサービスおよびそれらを実現するネットワーク、プラットフォーム、アプリケーションの開発を推進していきます。本特集ではその一部をご紹介します。そして今後も皆様から忌憚のないご意見を頂戴し、商品開発、ビジネス開発に活かしていきます。

参考文献

1) 総務省資料による。

e社会、AP@PLAT、CenterStageは、沖電気工業株式会社の登録商標です。その他、文中に記載されている会社名、商品名は、各社の登録商標または商標です。